

ターンテーブルアキュライザーの導入(7)

—Garrad401 への適用(2)—

1. 始めに

インフラノイズ社から、ターンテーブルアキュライザーTACU-1 が発売されたとの情報を入手し、前報(1)の計画に従って評価をしていきます。今回も、Garrad401 に使用してみます。

2. ターンテーブルアキュライザーTACU-1 の試聴方法

Grrad401 再生の現状は下記のとおりです。

[アナログプレイヤーの比較試聴\(18\)](#)

Garrad401→47 研 4718→Brooklyn DAC+(Line 入力)→TruPhase

カートリッジは ZYX R100-EX、アームは FR-64S、フォノステージは 47 研 4716 へのダイレクト入力です。

さらにターンテーブルシートは THE FUNK FIRM の Achromat (黒色) を、スタビライザーは AudioTechnica 製のもの、インシュレーターはインフラノイズ製のマグナライザーを使用しています。

このスタビライザーを外して TACU-1 に交換します。

音源は聴きなれた下記を使用します。

Deutsche Grammophon 483-6927/6928/6929

J.S.Bach Sonatas & Partitas

Nathan Milstein

ドイツグラモフォン MG9551

ベートーベン 三つのピアノソナタ (選帝侯のソナタ)

ゲザ・アンダ (ピアノ)

LONDON KLJC-9180/9184 (RTI/キングレコード)

リヒャルト・ワーグナー：ワルキューレ全曲

ゲオルグ・ショルティ指揮ウイーンフィル

Angel AA-9117・C

ヘンデル メサイア

オットー・クレンペラー指揮フィルハーモニア

3. ターンテーブルアキュライザーTACU-1 の試聴結果

上記はいずれも大編成の曲の解像度と楽器の質感の再生を要求されるものです。これ

らの再生上のポイントは、前報(3)で述べたとおりです。

Bach の **Sonatas & Partitas** では、上記スタビライザーの状態でも、豊かな響きで力強いボウイングの様が聴けますが、**TACU-1** を適用しますと、音の肌理が細くなる、よりリアルにボウイングの表現力が伝わってきます。

選帝侯のソナタでは、上記スタビライザーの状態でも、煌びやかで力強い演奏ですが、**TACU-1** を適用しますと、音の滲みが減ってクリアーになり、アンダの演奏技法が分かりやすくなります。

ワルキューレでは、上記スタビライザーの状態でも、ソプラノやメゾソプラノの声の張りもあり、オーケストラの迫力もありますが、**TACU-1** を適用しますと、ソプラノやメゾソプラノの声の輪郭がより明瞭になり、オーケストラの各パートの分離が向上します。

メサイアでは、上記スタビライザーの状態でも、ソプラノやバスの声の張りもあり、合唱とオーケストラの迫力もありますが、**TACU-1** を適用しますと、歌手のヴィブラートも明瞭になるなどの質感も向上し、合唱とオーケストラの分離も向上して、各パートの掛け合いが把握しやすくなります。

4. まとめ

Garrad401 のような旧式のシステムにおいてそれぞれ再生上固有の魅力のあるアナログ盤においてその魅力を倍増させる **TACU-1** の効果を認めました。

以上